

	11月 網島デポエネルギー勉強会	20人	・子供を対象に「ソーラークッカー作り」を実施する。講師は横浜市ソフトエネルギープロジェクト。
	11月 映画「パワートゥーザピープル」上映会	30人	・生活クラブより講師依頼「自然エネルギーについて語ろう」 ・映画の上映を通じて、自然エネルギーの周知を図る。
	12月 「省エネって面白い？」勉強会	60人	・横浜市温暖化対策統括本部・港北区地域振興課との共催で省エネ勉強会開催。講師は足温ネットワーク山崎求博氏による「節電所を作ろう！」
	1月 暮らしの中のエネルギーを学ぶフォーラム	30人	・フォーラムを実施、さらに広く周知を進める（ソフトエネルギープロジェクトと共催）
	3月 防災とエネルギー勉強会	40人	・師岡町内会「防災知恵袋展」にて、エコストーブでの炊き出しを実施。関心を集める
	3月 エコストーブで朝ごはんと落語	40人	・エコストーブの実演を兼ねた、朝ごはん会を実施、「落語」も取り入れることで、多世代への周知を図る。
	平成28年度	○港北区地域のチカラチャレンジ事業2年目 ○ヨコハマ市民まち普請事業に応募	
5月 エコストーブで釜飯		40人	・地域のチカラのチャレンジ事業も続けながら、地域での出番が増えてきた。とくに、地域防災拠点や、町内会での防災訓練などで、ソーラークッカー、エコストーブなどの実演が注目を集めた。
6月 ヨコハマ市民まち普請事業1次審査通過			・横浜市温暖化対策統括本部・港北区地域振興課との共催で省エネ勉強会、2回目の開催。基調講演は鶴見川流域ネットワーク代表岸 由二氏による「水災害時代を生き抜くには」
9月 おうちエネルギーワークショップ		30人	
10月 エココンロを作ろう		30人	
10月 ふるさと港北区民祭り省エネアンケートの実施		200人	
11月 師岡コミュニティハウス文化祭（はちみつ啓発）		50人	
12月 温暖化豪雨時代水災害時代を生き抜くには、		60人	
2月 ヨコハマ市民街普請2次審査通過、採択決定			

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	・避難訓練への参加 ・町内会民生委員児童委員	・エコストーブを使って、防災食づくりを支援。 ・活動をきっかけに、代表は地域の民生委員として地域活動に参加している。
学校との関わり	・学童バザー ・地域防災拠点	・学童バザーにエコストーブやソーラークッカー、大倉山のはちみつなどを持ち込み、環境学習につなげている。

		・地域防災拠点の、避難所設営訓練などでも、エコストーブやソーラークッカーを活用・普及活動をしている。
他の市民団体との関わり	・地域のNPOとの協働 ・師岡コミュニティハウス文化祭	・地域のまちづくりNPOなどとも連携しながら、顔の見える関係づくりをいろいろな活動の機会を通して進めている。 ・地域のコミュニティハウスの文化祭などにも積極的に参加している。
企業等との関わり	・造園会社との協働 ・エネルギー関連企業との協力 ・まちエネ大学から発展	・H29年度に行った、畑の中での映画上映会では、運営管理を行う造園会社などとも協働し、会場の設営、ソーラーエネルギーの利用などが実現できた。 ・ソーラーパネルのメーカーとも協力し、自然エネルギーの普及啓発や省エネの意識付けなどをイベントや学習会を通して、ともに実施している。 ・バン格拉デシュマングローブの森からの無農薬のはちみつの広報・販売協力、障害者支援。
行政との関わり	・港北区地域のチカラ ・横浜市地球温暖化対策協議会 ・横浜市地域まちづくり課	横浜市港北区地域振興課「地域のチカラ応援事業」 経済産業省「まちエネ大学」にて、「大倉山みつばちとソーラー発電所」を提案し次席となる。 平成29年度「ヨコハマ市民まち普請事業」採択。
その他、環境以外の分野との関わり	・菅野養蜂(菊名)	・大倉山はちみつの広報・販売協力。

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※ 立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※ 個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

H23 震災を契機に、地域を見直し地域でどのような活動が行われているのか、関心を持った。

H24 映画「ハッピー」の上映会で集まった人をきっかけに、地域で自然エネルギーの市民共同発電所を作りたい、地域でコミュニティを深めたいという思いを共にする人たちと活動しようという機運が生まれた。

H25 まちエネ大学神奈川・横浜校に参加。先進的な活動をしている方々を講師に招き、エネルギー学習会(エネカフェ実施)を積極的に実施し、関心や周知を深める。

H26 学習会だけでは、周知に限界があることがわかり、エコストーブやソーラークッカーを使った食事会や畑作業を通じたコミュニティ作りが「楽しく続けられる活動」と認識し、シフトしていく。

H28 それらの考えを形にしたヨコハマ市民まち普請事業に「太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション」という提案を応募し採択される。地域での活動の拠点ができることで、さらに参加する主体の幅が広がった。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

※自己評価や活動を引き継いだメンバーが改善したこと等を具体的に記入してください。

- ・「市民協働発電所建設」という目標に対しては、まだまだ広くの参加と、理解が必要ということが分かったので、新しくできる活動拠点や、地域の中の畑、空きスペースの活用なども通して、理解を募っていくこととした。
- ・自然エネルギーを使った暮らし、自然と寄り添う暮らし方、節電、防災、CO2削減のためのアクション、については、地元とともに丁寧な周知と、継続した地道な活動をさらに広げていくこととする。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

- ・借りている畑は、地域に昔からある場所で、固有の植物も多い。訪れた人にそれら植物の名前を伝え、希少性を知ってもらおうようにしている。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

- ・「もろおかエコステーション」の完成を目指し、地域の人との交流の機会を増やしていく。
- ・エコステーションの畑で採れた野菜による食の提供や、活動の参加による収入も増やすことで、活動の継続性を高めていく。
- ・引き続き、地域でのイベント、フォーラムを様々な主体と連携しながら実施して、活動の周知、参加、利用を増やし、活動の目標とする、「未来のエネルギーのこと、地域で楽しく暮らすこと」について話し合う機会を多くもち、CO2削減のための環境活動を進めたい。
- ・空き家、空きスペース、耕作放棄地などを利用した、小さなコミュニティづくりに協力していきたい。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

- ・自然エネルギーの啓発だけにとどまることなく、地域の中で利用されていなかった耕作放棄地を、地域の人たちの手で耕し、畑で野菜を作り、畑の脇に、そういった活動を周知するための拠点をソーラーパネル、雨水タンクとともに作り、継続した活動を目指している。
- ・この拠点は、地域の人々の防災拠点ともなり、自然エネルギーが防災にも役立つことを伝えている。
- ・地域の様々な活動団体、行政、他の拠点などとも連携し、継続した啓発活動を行っている。
- ・イベントや活動では、「楽しい」「美味しい」「多くの人がかかわる」といったことを大事にしながら、自然エネルギーの利用、イベントでのエコ食器の活用、といったことでも普及啓発として活動している。



未来を担う子供たちのために、
未来のエネルギーや、地域で楽しく暮らすために
必要なことを考えよう！

【熊野の森もろおかスタイル活動写真】



第25回横浜環境活動賞 市民の部 応募



まちエネ大学神奈川・横浜スクール

2014.10-2015.2



「横浜・大倉山での発電プロジェクトの立ち上げ」(肥後貴美子さん 代理：澤橋知晴さんと余川聡信さん)

【事業概要】

商店街と市民が連携して、ソーラー発電と養蜂をビルの屋上で行う、という都市型ソーラーシェアリングの計画。大倉山は、東急東横線沿線のまち。梅林公園や鶴見川、住宅街に畑、千年以上の神社、と自然も多い。2010年からこの商店街で「大倉山みつばちプロジェクト」の計画があり、猛暑やビル風からみつばちの生育を助けるために、巣箱の日よけや風よけとしてソーラーパネルを設置する。

総発電容量は3.06 kW(18枚)、年間発電量4,000 kWh、初期費用は200万円(総店街出費が100万円、個人からの寄付100万円)。

出資者へは、養蜂でできた蜂蜜をプレゼント。横浜市ふるさと納税制度に、温暖化防止サポーターという制度があるので、税金の一部免税できないかも考えている。大倉山振興会館「おへそ」の1階にイベントスペースがあり、そこで再エネ普及啓発活動・交流や、放送局があるのでみつばちプロジェクトの宣伝ができる。農大や、養蜂をまちづくりの一環として行う鏡座や江古田とも連携して、PRや共通の問題解決をはかっていきたい。事務局運営費やデザイン費などをどう賄っていくかが課題。

山口さん：消費が多い都会の中で、食べ物を生産するというのはとても夢がある。まずは第1号を寄付金でやってみて第2号から展開するときに、1号での経済性をみて徐々に金融機関に相談するというのがいいのでは。まずは実現させてください。非常に楽しみなプロジェクトです。

住吉さん：みつばちと太陽光発電はどういう関係があるのかな？と思ったが、ぱっと絵が浮かんでくる。地域おこしの住民を巻き込んだ循環型の面白いプロジェクトだと思いました。実際に建物もあり放送も便、蜂蜜も大倉山ということでブランド化もでき、地域の人みつばちを意識して花を植えるようになる。事業としてという、どうやって収益をとると思うが、ぜひ地域のためにやっていただきたい事業だと思いました。

渡部さん：みつばちとソーラー発電の組み合わせが面白い。還元を、お舎ではなくはちみつで、というのは絵が浮かんできて、メッセージ性としてもいい。ブランド化や商店街との関わり、地元への発信や巻き込み方なども、よい着眼点だと思います。これから楽しみです。



まちエネ大学神奈川・横浜スクールにて「大倉山での発電プロジェクト」を提案。地域の有志が集まり、話し合いを重ねて、事業プランを作成して発表。

予定していた商店街の養蜂が行われなくなってしまい、計画は実現しなかったが、多くの人の協力のもと、期待され次点となる。



エコストーブを作ろうワークショップ

2015.10.24



「エコストーブ de 朝ごはんプロジェクト」を講師に招き、ワークショップを師岡町会館で開催。町内会の防災担当、エコ活動に興味をもつ地域の方も多数見学に。港北区の市民活動紹介の表紙を飾る。



早速、ご飯を炊いて食べる





地球温暖化学習会

2015.12.12



横浜市・港北区・市民が共同で行う学習会。

COP10 開催中だったことから、環境省職員による COP10 の実況中継を交えたことで、「地球温暖化対策が身近なものに感じられた」という感想多数。

横浜市の温暖化対策、港北区の取り組み、市民の取り組み（熊野の森もろおかスタイル）が連動して行った意味は大きい。

合同の学習会は、2016年12月も開催した。



ソーラーカーの試乗も



ソーラーパネルも展示





エコストア de 朝ごはん

2016.4.21 ~



「エコストア de 朝ごはん」は、2016年4月より、回を重ねるごとに人気が出ており、「次はいつ？」と聞かれる好例のイベント。

ご飯を炊いて、持ち寄りおかずと一緒に食べる・・・というシンプルでお金もかからず、コミュニティ作りにも貢献。また、食後に落語を入れたり、釜飯にしたりとアレンジも様々に展開している。



ソーラークッカーでお湯を沸かす



持ち寄られたおかず

自然の恵もろおかスタイル エコカフェ

朝ごはん to 落語

エコストア de

2016年 3/20 日曜日 9:00 ~ 11:30
会場 綱島町内会館7階

料金 20名
持ち物 マイ箸、マイお皿、マイ湯、持ち寄りおかず(味噌汁)
申込 4/10(日) 17:00迄
お問い合わせ 045-471-2279

チラシ (2016.3.20)

自然の恵もろおかスタイル エコカフェ

海鮮釜飯 to ワイン

エコストア de

2016年 5/7 土曜日 11:00 ~ 14:00
会場 緑スタジアム

料金 15名
持ち物 マイ箸、マイお皿、マイ湯、持ち寄りワインの具(味噌汁)
申込 4/16(日) 17:00迄
お問い合わせ 045-471-2279

チラシ (2016.5.7)

自然の恵もろおかスタイル エコカフェ

朝ごはん

エコストア de

2016年 10/15 土曜日 9:00 ~ 11:30
会場 緑スタジアム

料金 15名
持ち物 マイ箸、マイお皿、マイ湯、持ち寄りごはんの具(味噌汁)
申込 4/16(日) 17:00迄
お問い合わせ 045-471-2279

チラシ (2016.10.15)

自然の恵もろおかスタイル エコカフェ

朝ごはん

エコストア de

2017年 3/25 土曜日 9:00 ~ 11:30
会場 もろおかエコステーション

料金 30名
持ち物 マイ箸、マイお皿、マイ湯、持ち寄りごはんの具(味噌汁)
申込 4/16(日) 17:00迄
お問い合わせ 045-471-2279

チラシ (2017.3.25)



ヨコハマ市民まち普請事業

2016.6 ~



年間約 40 種の野菜を栽培

3 年前から借りている畑をコミュニティ空間にするため、「農・食・環」を体感する「もろおかエコステーション」として、「ヨコハマ市民まち普請事業」に応募し採択される。応募にあたっては、町内会はじめ地域の方々の方々のたくさんの応援をいただき、メンバーも増えた。整備のほとんどを、自然素材を使ったセルフビルドで行っている。整備のあとは「こびるタイム」という軽食を食べる時間を設けており、そこでもソーラークッカーやエコストーブを使って調理し、防災への備えも兼ねている。エコステーションの整備は現在も進行中。



畑のものを活かした食事



ソーラークッカーでお湯を沸かす



ほとんど自力の整備



思い思いに、ロゴマークをアレンジしたバンダナも作成



釘を使わず整備したパーゴラとベンチ



落語 de キャンドルナイト

2017.6.21



「夏至の夜、夜8～10時まで電気を消してスローな夜を」国民運動にもなっているキャンドルナイトの師岡版。メンバーに落語ができるものがあり、LEDとロウソクの灯りで、一緒に時間を過ごし、クールシェアも訴えた。LEDの電力は、ソーラー発電によるグリーン電力を使用。



LEDの灯りはソーラー発電によるグリーン電力で



キャンドルとLEDの灯りに包まれた会場



畑で採れたキュウリやミニトマトをおつまみに 竹灯籠もLEDで

チラシ



星降る夜の幻燈会@梅の丘公園

2017.9.30



地主さんから、師岡の昔の話を聞く。

2016年4月に市民農園として整備された師岡梅の丘公園で、昔懐かしい幻燈会を行った。

映画にはグリーン電力を使用。エコストーブのデモンストレーションを兼ねてご飯を炊き、カレーをつくった。エコストーブの燃料は、梅の丘公園の薪。

また、カレーの器にはリサイクル食器を使用して、エコを訴えた。町内会の協力を得て掲示板にチラシが貼られたこともあり、小さな子供から大人まで、150人を越える地域の人が集まり、心に残るイベントになった。



エコストーブでカレーのご飯を炊く



映画上映はソーラー発電によるグリーン電力で



チラシ



公園管理会社が設営担当



食器はリユース食器を使用。リサイクルを呼びかける

第25回横浜環境活動賞 推薦用紙

被推薦者	熊野の森もろおかスタイル 代表 肥後貴美子
推薦者	横浜市温暖化対策統括本部

推薦理由

YES（ヨコハマ・エコ・スクール）協働パートナーである「熊野の森もろおかスタイル」は、居住地域での自主的な市民活動から発展した、地域密着型の環境啓発団体として他の団体からも注目されている。

特に子供から高齢者まで幅広い層への環境・省エネ・温暖化対策等の啓発活動は、対象者の趣向を的確に捉えた、「体験型の学び」（防災とエコストープ、エコストープと料理、料理と地産地消、家庭菜園と地産地消など興味を引く組合せ等）として、安定した集客と参加者からは、高い評価を受けている。また、地元自治会や港北区役所との連携、当本部や他局との連携など横浜市との関係強化にも積極的努めており、普及啓発活動と団体の姿勢など普及啓発のお手本的な団体となっているため推薦します。